

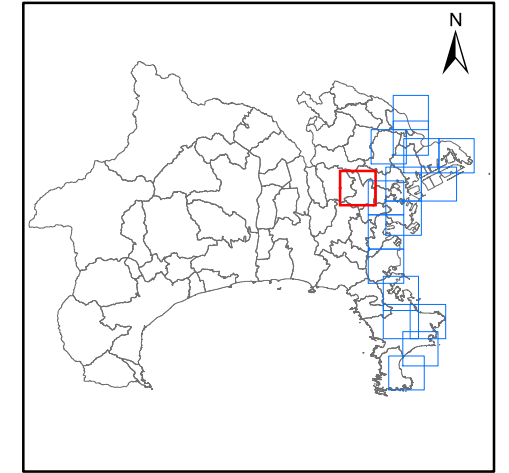
# 家屋倒壊等氾濫想定区域図（氾濫流）

1:25,000  
0 250 500 1,000 1,500 m



## 【位置図】

作図範囲：  
範囲に該当する市  
横浜市



## 【凡例】

- 家屋倒壊等氾濫想定区域  
(氾濫流)
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
- 高潮の遡上等が明らかな  
区間の上流端

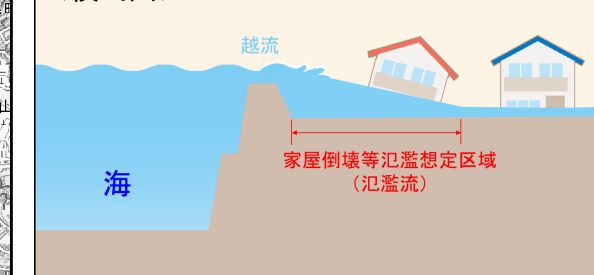
## 【留意点】

- 家屋倒壊等氾濫想定区域図は、適切な避難行動の判断に資する情報として、想定し得る最大規模の高潮により、家屋の倒壊・流失をもたらすような氾濫流や越波が発生することが想定される区域を2種類の図面に表示したものです。
- 家屋倒壊等氾濫想定区域図の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、我が国における既往最大規模の台風により、東京湾沿岸で潮位偏差（実際の潮位と天文潮位の差）または波高が大きくなる複数の経路・台風半径・移動速度を設定して、高潮浸水シミュレーションを実施しています。
- この複数のシミュレーションの結果から、家屋の倒壊・流失の危険がある範囲を最大包絡したものを示しています。
- 台風等により高潮が発生する状況では、同時に降雨も想定されるため、一級、二級河川については、上流から河川整備の目標とする降雨による洪水が発生し、下流端の水位は高潮発生時の水位となった場合の氾濫状況を示しています。
- 高潮による河川内の水位変化を図化していませんが、高潮の遡上等により、海岸から離れた地域でも河川から浸水することが想定されます。
- 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）は、計算上で家屋の形状を考慮していないこと、家屋の倒壊等の指標として標準的な木造家屋を用いること等、一定の仮定を与えて算定しているため、この区域の境界は厳密ではなく、あくまでも目安であることに留意してください。
- 区域以外であっても、古い木造建築物である場合や、局所的に速い氾濫流が発生した場合などには、家屋の倒壊等が発生する場合があります。
- この区域図は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した台風を参考に実施したシミュレーションから設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
- 確実な避難のためには、気象庁が発表する台風情報や、各市が作成するハザードマップ等を活用してください。

## 【用語の解説】

家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)：家屋の流失・倒壊をもたらすような高潮・洪水の氾濫流が発生するおそれがある範囲

## <模式図>



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を使用した。「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 5JHs 121」